

木洩れ陽

第38号 平成28年9月30日

発行：大阪府介護者（家族）の会連絡会

〒542-0065 大阪市中央区中寺 1-1-54

大阪社会福祉指導センター内

Tel 06-6762-9473 FAX 06-6762-9487

◆ 6月9日総会開催 新会長に坂口義弘氏（茨木市・会長） ◆

【第1部：総会】

総会において、新役員が選任されました。新体制のもと、関係機関との連携を強化しながら、引き続き、誰もが安心して気軽に集うことのできる“居場所”づくりや、さまざまな“当事者”・家族との交流、ゆるやかなネットワークづくりに取り組んでいきます。皆様のご協力よろしくお願ひします。

【新会長：坂口^{さかくち} 義弘^{よしひろ}さん（茨木市）】

平成29年に終了する第6期介護保険制度改正は介護家族に大きな変革が求められています。保険制度は変わってきても介護する家族にとっては厳しい現状に変わりはありません。「新しい介護予防・日常生活支援総合事業」は各市町村で検討されています。施策を見極めお互いに情報交換をしながら家族にとって上手な利用を共有化していかなければならない大切な時期にあると思います。この連絡会が地域で安心して暮らせるための会として皆様の一層のご協力ご支援をお願いいたします。



◇平成28年度 事業計画 ◇

＜主な活動＞

- 全体活動交流会の実施（年1回）
- ブロック別交流会の実施（各ブロック年1回）
- 機関紙の発行（年2回）
- 他団体、関係機関との情報交換
- マッセ市民セミナーへの参加、協力（新規）
- 認知症カフェや居場所づくりの取り組み等の視察

【第2部：講演会】「認知症の人が暮らしやすい社会へ」

第2部では、「認知症の人が暮らしやすい社会へ」と題し、若野 達也さん（一般社団法人SPSラボ 若年認知症サポートセンター代表理事）にご講演いただきました。

若野さんは若年認知症の当事者や家族からの声を聞き、認知症の人々が望む地域での暮らしを支えるためにインフォーマルサポートとして若年認知症サポートセンター「絆や」を設立しました。当事者が地域の子供達に勉強を教えたり、お祭りを企画・準備をするなど、地域の困りごとを応援することを通して、地域の人々となつながら当事者の“働くこと”を応援するとともに、当事者の想いや生きる姿、行動する姿を地域の人々に伝え、相互理解を深めながらまちの活性化に取り組んでいます。

講演のなかで若野さんは「認知症の人にとって住みやすいまちは、他の人達にとっても住みやすいまち。地域の多くの人々が“ジブンごと”として一緒に取り組んでいける環境づくりが大切である」と話されました。



◇新役員よりごあいさつ◇

【副会長・喜納 政本さん(大阪狭山市)】

昨今、男性介護者が増加しています。一般的に男性は外に出て仕事に従事しています。ある日から、家族の介護をする事になれば、日々の暮らしに戸惑う事になります。介護者家族の会活動を継続することが既に老々介護、若年介護者の従事している人へ精神的、肉体的な負担軽減に繋がると確信し、メッセージを届ける事が出来ればと考えています。

【会計・増本 笑子さん(摂津市)】

摂津市老人介護者(家族)の会会長の 増本笑子です。この度、大阪府介護者(家族)の会の会計を務めさせていただくことになりました。何分にも、摂津市の会長に就任して三年目で未熟者ですが、精一杯頑張ってみたく、みなさまのご指導ご協力をよろしくお願いいたします。

【会計・中居 幸子さん(岬町)】

介護をすることによって生きづらい課題や悩みを抱えた人たちが仲間と出会い、同じ悩みを共有し、直面している課題や自分自身の問題と向き合いながら、社会的自立を図ることを基本理念に活動しています。新しい総合事業への移行に伴い、高齢者や住民同士が助け合い、地域での新たな社会的役割が必要となる中、当会の活動が人と人をつなぎ、心のよりどころとなるように、“ほほえみ”を持って介護できるように、これからも活動を続けてまいります。本年度は役員として関わらせていただき、他ブロック家族会との情報交換を大切に、会員同士が共に学び、共に務めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【副会長・西浦 圭一さん(泉南市)】

妻が「若年性アルツハイマー」と告げられ15年目になり、今は施設でお世話になっておりますが、誰に相談したらいいか・・・どこに行けばいいかも分からず途方に暮れていた「痴呆症」と言っていたその頃、「介護者(家族)の会」を知り、会員の皆さんに心の内を聞いていただき、助言をいただいた事でどれほど勇気をもらったことかはかりきれません。これからは、そのお返しをする番だと思っております。微力ではございますが、皆様のお力添えを頂きながら努めて参りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【会計監査・北本 洋子さん(大東市)】

平成8年に義父、平成26年に義母を看取り、そして、昨年実母もグループホームに入所しました。この20年間で3人の介護を通し、介護は一人ひとり違うことを実感しました。また、高齢化にともない家族の会の会員で、ご自身も足が不自由になり、サロンに出て来たくても来られない人をどうサポートしていくか、これからの課題です。ますます地域やボランティア団体との連携が重要になってきました。今年度、役員を仰せ付け微力ですが、皆さまと力を合わせてお役に立てればと思っております。

【幹事・小谷川 淑子さん(羽曳野市)】

母を91歳までの14年間在宅介護を経験して、平成4年に介護者家族の会に入会、今日に至っております。平成24年、交通事故に遭い介護される身となり、介護「する」と「される」の両方を体験して、友人や地域の方々の温かい思いやりに支えられていることに気づき、大きな喜びと感謝の毎日です。何かプラスに成るように会員の皆様と励んでいきたいと思っております。

◇会員活動紹介◇

【茨木市老人介護家族の会】

昭和61年6月に大阪府内で3番目に発足した会で、結成当初は介護保険制度もなく、会員同士でオムツを共同購入したり、車イスや介護用ベッドの貸出をするなどして、お互いに支え合いながら運営してきました。介護保険制度が利用できるようになりましたが、介護で直面する悩みや葛藤はまだまだ当事者でなければわからないということから、今では、介護者が感じる負担の軽減を家族の会が担えるよう活動を展開しています。

昨年度からは、心にゆとりをもって介護ができるよう『いこいのカフェ』を開催しています。介護者や要介護者はもちろん、介護について関心のある方など会員以外の方にも気軽に参加して頂けるような誰もが楽しい憩いの『場』となるよう、みんなで工夫しながら運営しています。そうして、みんなで支え合いながら進めてきた会も今年で30周年を迎え、記念事業として十月十八日に記念誌の発行と会員以外の方にも聴いていただけるよう、専門医による認知症の理解と予防についての講演会も実施します。これからも介護の現状を当事者だけの課題として考えるのではなく、広く地域の方々にも知ってもらい、理解・協力してもらえよう、活動を展開していきたいです。



【摂津市老人介護者（家族）の会】

摂津市老人介護者(家族)の会は平成4年に結成され、今年で24年目を迎えます。長年の活動が実を結び、今では市の主催する市民講座他いろいろな機会に介護の体験をお話する場をいただくようになりました。

本会では3年前から誰もが気軽に参加することができる「楽々カフェ」を毎月第2月曜日に摂津市立地域福祉活動支援センターで開催しており、毎回30から40人の方々が参加されています。

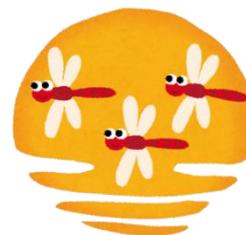
このカフェは在宅介護など家に閉じこもりがちな会員を積極的に誘って来てもらう他、認知症ご本人やケアマネジャー等の福祉事業関係者のみなさんがつどいます。在宅介護に関する悩みや日頃の暮らしの困ったこと等を自由に話合ったり、みんなでなつかしい歌を合唱したり、ボランティアの協力で「笑いヨガ」や「紙芝居」、演芸等を披露してもらい、楽しいひと時を過ごしています。また、出張カフェ中学校区単位で開催する等、だれもが参加しやすいよう工夫をこらしています。



情報コーナー

ブロック交流会のお知らせ

北摂ブロック：11月30日(水)
河北ブロック：12月5日(月)
河南ブロック：1月31日(火)
泉州ブロック：11月25日(金)



※詳細はブロックごとにご案内いたします。

家族の“共感”と家族会の必要性

高次脳機能障碍 トーク&ミニライブ～本人・家族の想いから学ぶ～

今年度の事業計画の活動にも組み込まれているマッセ・市民セミナーが、7月25日(月)に開催されました。当日は新役員の北本さん(大東市)や喜納さん(大阪狭山市)をはじめ、家族の会からも多くの方が参加しました。講演を行ったのは高次脳機能障碍当事者であり歌手の一ノ瀬たけしさんとそのご家族。父の純二さんは「最初は障碍を受け入れられず家族で喧嘩ばかりだったが、回復を信じ、本人が好きなこと、心地よいと感じることを家族みんなで応援し、『ありがとう』と言いつけるように」「家族会では、『あせらない・比べない・あきらめない』を合言葉に活動している。

介護者・家族が本音を語り合える時間や場がとても大切」と、ときにユーモアも交えながら家族の想いや家族会の必要性について話されました。

トーク&ミニライブでは、純二さんがたけしさんの高次脳機能障碍についての知識を交えながら紹介した後、たけしさんが歌声を披露。二人の絶妙な掛け合いと歌声に、会場は笑い声と大きな拍手で包まれました。

家族の会からの参加者からは「障碍を持つ当事者を含めた方々との連携が必要だと改めて感じた」「母親の努力、障碍への理解、支えていく力の大きさがわかった。家族が“共感”することが大切」などといった感想があがりました。



遠距離介護セミナー2016 大阪

「子のココロ親知らず 親のココロ子知らず 親と向き合う知恵とコツ」

よかれと思って提案しているのに、拒否されてムカッとした経験はありませんか。親に悪気があるわけではなく、親のルールがあったり、プライドだったり。離れて暮らす親とのやりとりで悩んでいる方、ぜひご参加ください!

主催：住友生命社会福祉事業団・NPO法人パオッコ

日時：11月20日(日) 13:00~16:00

会場：「AP 大阪梅田茶屋町」JR大阪駅御堂筋北口より徒歩約3分

参加費：無料

申込は10月11日(火)より受付開始です。



※申し込み方法等、詳細は各会へ配布しているチラシをご覧ください。